

たんぽぽだより



先日の『たんぽぽマルシェ』ご参加くださった方ありがとうございました。
親子で、一緒に楽しんでいただいたようでした。

ボイススキャンでは親子でも違う部分があると言う事がわかり、子育ての参考になったと思います。

去年の保育士の研修で心理に関する研修があったのですが、同じ事でも、感じ方や表現方法がひとりずつ違うのだと言う事を知りました。

その時のお話で、表(偽物)の感情と裏(本物)の感情があるそうです。

例えばいじめしている子の表の感情は、《嫉妬》や《怒り》や《嫌悪感》などですが、本当の感情は自分の親に対する《悲しみ》や、《寂しさ》だったりするのです。

そして表の嫉妬・怒り・嫌悪感などの感情に対して対策をとっても、それは全く解消されない、でも本物(裏)の感情の悲しさ・寂しさなどを受け止めてもらえるとスッと解消されるんだそうです。

どうして偽物の感情が生まれるかと言うと、小さいときに否定されてきた感情(例えば「男のくせに泣くな」とか「怒っちゃいけません」とか「イヤイヤ言わない!」とか「それくらい痛くない」と言われたり)、感じた時にその感情を出せず、その感情を解消するため、イライラしたり、暴れたり、笑ってごまかしたりと言う事で何とか心の安定をとっているんです。

さらに本物の感情を抑え続けているとだんだん麻痺してきて、自己防衛反応からその感情を感じないようにまでなることがあるそうです。それが怖い! 痛みを感じないようにしてしまうと他の人を傷つけても平気になったりします。以前あった佐世保の2つの悲しい事件もそうでしょう

表に出せない感情が作られるのが、乳幼児期

小さい時は『喜・怒・哀・楽』すべての感情を出しているはず、怒りも悲しみも必要な感情なんです。その感情って否定したり、なかったことにせずに、保護者の皆様がちゃんと受け止めてほしいです。

私は今流行の『叱らない子育て』じゃなくて、『受け止める子育て』と言う方が言葉として合ってるんじゃないかと思っています。
『受け止める』とは……「怒っているんだね、わかるよ」「いま悲しいんだね」と言葉に出して言う事です。

保育サロン
たんぽぽ

目 標：言葉で伝えよう。お手伝いをしよう

ねらい：みんなと仲良くなろうとする。

つぼみ組：感染症や個々の健康状態に留意し寒い時期を健康に過ごす。

もも組：保健的で安全な環境の中で寒い時期を健康で快適に過ごす。友だちと関わりながら一緒に遊ぶことを楽しむ。

ゆり組：保育者と一緒に、冬の生活の仕方を知る。友達や保育者と一緒に遊びながら、いろいろなごっこ遊びを楽しむ。

さくら組：寒さ対策を十分にし、冬の自然に親しむ。

すみれ組：就学への期待や不安を受け止め、自信をもって生活できるようにする。お互いを認め合いながら遊びを進めていく楽しさを味わう。

2月の保育内容

つぼみ組：寒い時期を健康に過ごせるようにする。冬の寒さを感じて、体を動かして遊ぶ

もも組：手洗い、着脱、排泄、片付けなど身の回りのことを自分から進んでやってみようという意欲へと繋げていく。保育者や友だちと遊びをとおして簡単な言葉のやりとりを楽しむ。ごっこ遊びなどを楽しむ。

ゆり組：外気との温度差を考慮して、室温の暖房・換気を行い、保健的な環境の中で生活する。順番があることや待つことを知り、何でも一番になりたい気持ちが相手も同じ気持ちがあることに気付く。生活や遊びの中で、保育者や友達と言葉のやり取りを楽しむ。

さくら組：戸外での危険な場所を伝え、安全に遊べるようにする。友達と生活する中で決まりの大切さに気付けるようにする。節分に興味関心を持ち、由来を知る。自分でできることを喜び何でも進んで行う。

すみれ組：体調の異常を感じた時は、子ども自身からも伝える事が出来るように病気や予防についてわかりやすく伝えていく。節分に興味関心を持ち、由来を知る。給食の配膳の手伝いなど積極的に行うようにする。

お願いとお知らせ

・インフルエンザが流行っています。自己治癒力の強い子は、治りが早いですが、体力が弱っていると重症になる場合もあります。

38度以上の熱が急激に出た場合は感染を疑います、(今年は熱が高くなくてもかかっている場合医もあるそうです)感染拡大防止のため、病院での検査をお願いします・登園する場合は、登園許可証を病院からもらってきてください。

・どうしても仕事が休めない方は、さいくさ小児科で病児保育室をやっていますので、そちらに登録をお勧めします。